

令和3年6月10日号 (第218回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「認知症看護認定看護師の紹介」をテーマに、看護部5階西病棟の宮林看護師及び4階西病棟の桑原看護師よりお話しさせていただきます。

「認知症」とは、老いに伴う病気の一つです。さまざまな原因で脳の細胞が死ぬ、または働きが悪くなることによって、記憶・判断力の障害などが起こり、意識障害はないものの社会生活や対人関係に支障が出ている状態（およそ6か月以上継続）をいいます。

認知症には、「**中核症状**」と「**行動心理症状**」の二つの症状があります。**中核症状**とは、脳の神経細胞が死んでいくことによって直接発生する症状で、周囲で起こっている現実を正しく認識できなくなります。具体的には記憶障害、見当識障害、理解・判断力の障害、実行機能障害、感情表現の変化などがあります。

行動心理症状とは、本人がもともと持っている性格や環境、人間関係などさまざまな要因がからみ合って起こる、うつ状態や妄想といった心理面・行動面の症状です。（能力の低下を自覚して）元気がなくなり引っ込み思案になったり、（今まで出来たことが上手くできなくなって）自信を失い全てが面倒になったりします。また（自分のしまい忘れから）他人へのもの盗られ妄想や、（嫁が家の財産を狙っているといった）オーバーな訴え、行動がちぐはぐになって徘徊するなどが症状例です。

認知症の症状が軽い段階のうちに認知症であることに気づき、適切な治療が受けられれば、薬で認知症の進行を遅らせたり、場合によっては症状を改善したりすることもできます。早期診断と早期治療によって、高い治療効果が期待できるのです。公立阿伎留医療センターではもの忘れ外来を行っておりますのでお一人で悩まずにご相談ください。

わが国では高齢化の進展とともに、認知症の人数も増加しています。あきる野市周辺地域においても例外ではなく、公立阿伎留医療センターでは合併症をもつ認知症の人の入院は増加傾向にあります。病院に入院した認知症の人が、その人らしく、その人の思いが尊重されるような認知症ケアが大切と考えます。

次に、**認知症看護認定看護師**の活動内容をご紹介します。

1. 院内研修の講師：看護職員に対し、認知症やせん妄に関する研修を行っています。ま



た、院外研修の対応も行っていますので、詳しくはホームページをご確認ください。

2. 病棟看護師の看護実践サポート：看護職員らの相談対応および病棟カンファレンスへの参加やミニレクチャー・勉強会開催などを行っています。

1. 2. の活動により認知症看護（ケア）の質の向上につながることで、認知症があっても、公立阿伎留医療センターに入院した患者さんが、安心した療養生活を送られるよう努めて参ります。

質問コーナー

Q. なぜ認知症看護認定看護師になったのですか

■A. 認知症看護認定看護師の宮林佐知です。私は看護師になる以前から介護職として認知症の方と関わってきました。経験の浅い頃は、認知症の方々の接し方に悩むことも多かったのですが、認知症の方の言葉や行動には理由があるとわかり、認知症ケアに関心を持つようになりました。病棟勤務では時間に追われることもありましたが、そのような時こそ患者さんの前で一呼吸おいてじっくり関わると、患者さんの心も自分の心も穏やかになり良好な関係が築けると感じました。看護師としてのスキルアップを考えたときに真っ先に頭に思い浮かんだのが認知症看護認定看護師でした。認知症についての学びを深め、令和2年2月に認知症看護認定看護師を取得しました。私が認知症看護で大切にしていることは「相手に関心を寄せること」です。患者さんの生活背景や生活習慣には看護のヒントが隠れていると考えています。患者さんご本人やご家族、入居していた施設、病棟スタッフとのコミュニケーションを良好にし、患者さんらしさのある療養生活へつなげられるよう活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

■A. 認知症看護認定看護師の桑原美生です。私が看護学生の頃は、「老人看護」という科目がカリキュラムとしてありましたが、認知症に関連した内容は十分でなかったように記憶しています。看護師免許取得後は大学病院での勤務となり、15室ほどを有する中央手術部に配属されました。様々な種類の術式の中で、意識下で行う手術も多くありました。高齢者の患者さんの中には、大声で叫んだり点滴を抜こうとしたり会話がかみ合わない方もいました。異動となった老年科病棟でも同様に、混乱し落ち着くことが難しい方がおり、場合によっては体を縛られることがありました。当時は認知症の人を「痴呆」と呼称していて、看護においては過渡期であったように思います。「なぜこんなに興奮しているお年寄りが多い？」「縛ったり薬で眠らせたりするのは必要？」「認知症の診断方法や専門的な治療って？」など臨床での疑問がありました。そんな中、時期を同じくして認知症となった身内はいつもニコニコ穏やかであったため、その落差に衝撃を受け【知識や技術をより深めて臨床に活かしたい】と感じました。



阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)